

平成 30 年度「食育に関するアンケート」集計結果表

1 調査目的:いわき市民の食生活や運動習慣などの生活習慣に関する状況や食育についての意識を知る

2 調査の時期:平成 30 年5月～6月

3 調査方法:

【市民アンケート】(資料5-2)

①思春期世代(16～18 歳)として、福島県立高校1校(198 人)に依頼した。

②青年期・壮年期・高齢期世代として、無作為抽出した客体 2,500 人に調査を行った。[青年期(19～39 歳)825 人、壮年期(40～64 歳)842 人、高齢期(65 歳以上)833 人]

【保護者アンケート】(資料5-3)

・子育て世代について調査するため、保育所年長児の保護者として、いわき市立保育所(園)6箇所(129 人)、小学6年生の保護者として、いわき市立小学校5校(393 人)に依頼した。

4 アンケート結果の概要について

(関連する指標)

・食育に関心を持っている市民の割合は、市民アンケート全体で 71%と第 2 次計画の目標値 90%を大きく下回る結果となった。特に高校生や青年期において関心が低い。	①
・同居家族と朝食や夕食を一緒に食べることが 1 週間に 10 回以上ある市民の割合は、全体で 47%で、高校生と青年期男性で 30%程度と割合が低くなるものの、その他では同じような結果となっている。	②
・地域や所属コミュニティでの食事会等の機会に「参加したいと思う」と回答した市民が実際に参加した割合は 52%だが、高校生では 20%と他の世代に比べ低い結果であった。	③
・朝食の摂取状況についてはアンケート全体の 80%が「ほぼ毎日食べる」と回答しているが、市民アンケートの世代別でみると若い世代で欠食が多い傾向にあり、保護者アンケートでは小学生の保護者に比べ、保育園児の保護者の欠食が多い傾向が見られた。また、朝食を欠食する習慣は 19～29 歳ごろにかけてが多い結果となっている。	④
・食事の栄養バランスについては「重要」「どちらかといえば重要」と考える市民が 93%と高い割合であったものの、「主食・主菜」・副菜」のそろった食事をとれている市民の割合は市民アンケート 60%、保護者アンケート 44%といずれも第 2 次計画の目標値 65%と下回っている。	⑥
・健康増進やメタボの予防・改善のために食事、運動、体重測定などの取組みを半年以上継続して実施している市民の割合は 37%とであった。第 2 次計画の目標値 50%を大幅に下回り、特に青年期男性では 18%と低い結果になっている。	⑦
・「日頃塩を摂りすぎていると思う」感じている市民の割合 29%に対し、「適正量である」は 37%という結果となった。また、「日頃、減塩を意識している」割合は市民アンケート全体で 67%、保護者アンケート 83%であった。塩分に関する質問では、高校生・青年期の若い世代ほど「意識していない」と回答する割合が高かった。	—
・食事を「よく噛んで食べている」市民の割合は 42%、「よく噛んでいない」割合は 33%となっている。	⑧
・過去 10 年間に農林漁業体験を経験したことがある市民の割合は全体の 37%と第 2 次計画の目標値 60%を大きく下回った。経験した体験の内訳では、すべての世代で農業体験が最も多かった。	⑩

<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの削減については、「削減を意識して取り組んでいる」市民の割合 73%、「重要」「どちらかといえば重要」と考える市民の割合 88%とであり、世代間に大きな差は見られなかった。 	⑪
<ul style="list-style-type: none"> ・食文化の継承の点では、食文化を「大切にしている」割合は市民アンケート 70%、保護者アンケート 91%と高い数値であったが、実際に取り組んでいる割合は市民アンケート 28%、保護者アンケート 44%にとどまった。 	⑫
<ul style="list-style-type: none"> ・これからも伝えていきたいいわき市の食べ物に対しては、市民アンケート・保護者アンケートとも「めひかり・めひかり料理」「さんま・さんま料理」と回答した方が非常に多かった。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・健康に悪影響を与えないための食品の選択・調理に関する知識が「十分またはある程度ある」と回答した市民の割合は 62%であったが、青年期男性においては「あまりない」「全くない」の割合がほかの世代と比べて高く 61%という結果であった。 	⑬
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分表示を食品選択の参考にしている割合は市民アンケートでは 62%、保護者アンケートでは 70%であった。年代・性別の点からみると高校生・青年期・壮年期の男性で参考にしている割合がやや低かった。また、参考とする内容で最も重視するものは、市民アンケートでは「カロリー」であったが、保護者アンケートでは「原材料」となっている。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する考え方・知識のきっかけとなるものや情報源としては、どの世代においても「家庭での教育」「新聞・テレビ・雑誌・インターネット等」との回答割合が高かったが、高校生では「学校の教育」の割合もほかの世代に比べ高かった。 	—

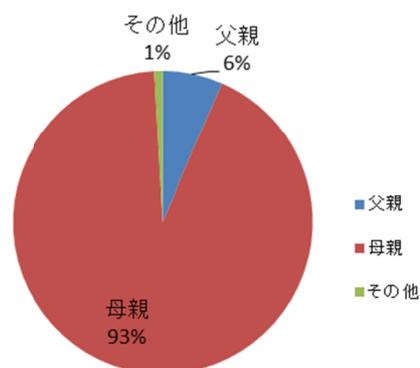
5 アンケート調査の回答率

	保育所年長 児の保護者 (平均年齢 34.6歳)	小学6年生の 保護者 (平均年齢 41.4歳)	思春期 (高校生)	青年期 (19～39歳)	壮年期 (40～64歳)	高齢期 (65歳以上)	合計
配布数(人)	129	393	198	825	842	833	3,220
回答数(人)	105	338	193	229	339	400	1,604
回答率(%)	81	86	97	28	40	48	50

6 保育所年長児及び小学6年生の保護者に対するアンケート結果

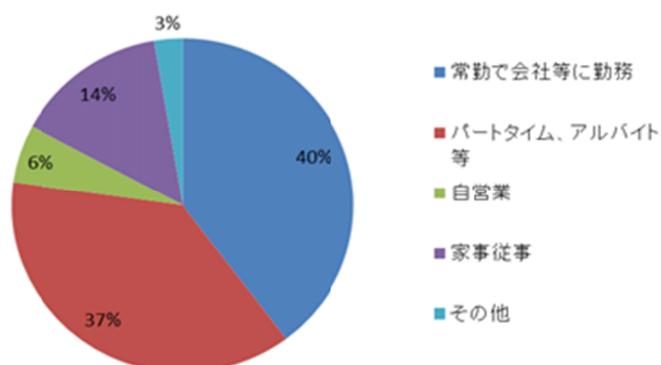
(1) 保護者とお子さんの関係 (人)

父親	29
母親	410
その他	4
合計	443



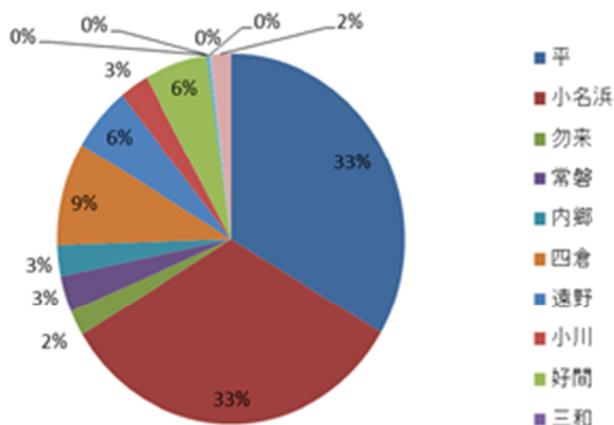
(2) 保護者の就業状況等 (人)

常勤で会社等に勤務	176
パートタイム、アルバイト等	166
自営業	25
家事専従	64
その他	12
合計	443



(3) 保護者の居住地 (人)

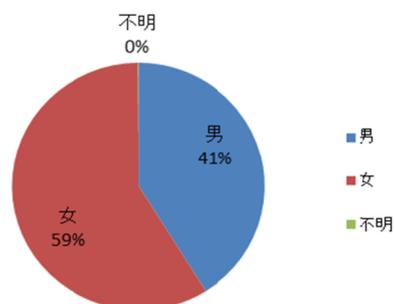
平	148
小名浜	146
勿来	10
常磐	14
内郷	12
四倉	40
遠野	25
小川	12
好間	26
三和	0
田人	1
川前	0
久之浜・大久	1
無回答	8
合計	443



6 思春期(高校生)、無作為抽出による青年期・壮年期・高齢期に対するアンケート結果

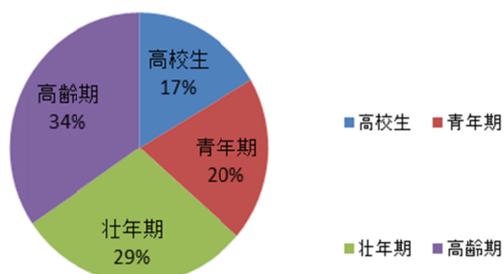
(1) 性別 (人)

男	477
女	683
不明	1
合計	1,161



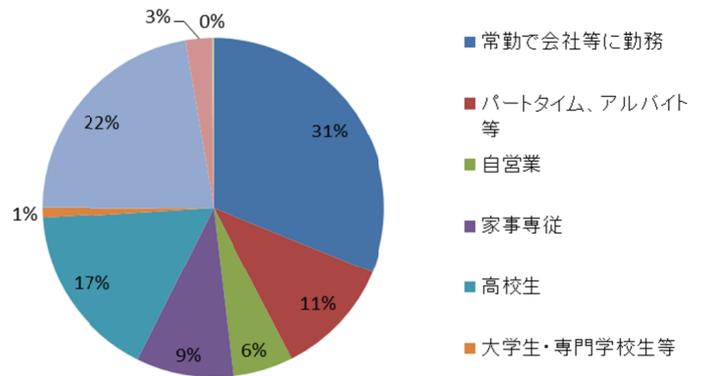
(2) ライフステージ別人数 (人)

思春期(高校生)	193
青年期(19~39歳)	229
壮年期(40~64歳)	339
高齢期(65歳以上)	400
合計	1,161



(3) 就業状況等 (人)

常勤で会社等に勤務	362
パートタイム、アルバイト等	131
自営業	66
家事専従	107
高校生	193
大学生・専門学校等	11
無職	260
その他	29
無回答	2
合計	1,161



(4) 居住地 (人)

平	346
小名浜	260
勿来	162
常磐	126
内郷	93
四倉	46
遠野	16
小川	23
好間	38
三和	15
田人	5
川前	7
久之浜・大久	17
無回答	7
合計	1,161

